



人ある限り人権を

やまびこ人権文化センターだより

2026

5

発行 やまびこ人権文化センター 倉吉市中河原 772-6 TEL/FAX 0858-28-4265

5月 やまびこサロン

地域包括支援センター「健康教室」

3月のサロンで行った、明倫・小鴨地域包括支援センターによる健康チェックの結果を受け取りましょう。自分に合ったストレッチも教えてください。

日 西鴨 5月14日(木)、天神野 5月21日(木)、中河原二 5月28日(木)

時 午前10時～12時(サロン終了後にデイを開催します)

講 明倫・小鴨地域包括支援センター職員



小学校・中学校の地区学習会がスタートします!!

5月から小鴨小学校、西中学校それぞれの地区学習会がスタートします。4月15日(水)に運営協議会が開催され学校、地域、保護者の三者がお互いに連携し、1年間の学習計画にそって学習会を進めていくことが確認されました。開講式と第1回の学習会の日程は次のとおりです。

小鴨小学校地区学習会

【開講式】5月12日(火) 午後6時から

【第1回】5月14日(木) 午後5時から

西中学校地区学習会

【開級式】5月27日(水) 午後6時30分から

【第1回】6月3日(水) 午後5時から

茶話会でほっこり

サロン 今年度の計画を立てました♪

4月のやまびこサロンは「茶話会」を行いました。最近の出来事や健康についての話など、皆さんで楽しくおしゃべりしたあと、今年のサロンで取り組みたいことを話し合いました。参加者からは「ほっとできる内容がいい」「音楽鑑賞がしたい」などの声がありました。



倉吉市人権教育研究会 総会・学習会のお知らせ



倉吉市人権教育研究会は、「部落差別をはじめあらゆる差別の解消」をめざして研究を進め、一人ひとりが「人権尊重のまちづくり」への理解を深め、自分にできることを大切にしながら活動しています。

日 5月9日(土) 午前10時から12時

所 倉吉交流プラザ 視聴覚ホール

【学習会】午前10時から11時10分

狭山事件一人芝居「石路(つわぶき)の花～石川一雄・短歌に託して～」

【総会】午前11時20分から12時

問 倉吉市人権教育研究会事務局(市人権政策課内) ☎22-8130

入場無料
(先着順)

会員以外の方も
参加できます。



困りごとや人権侵害ひとりで悩まないで 人権文化センターは身近な相談窓口です

人権文化センターはこどもから高齢者までのさまざまな人権問題や生活の困りごとについての相談に応じています。市の窓口や関係機関の紹介など対応していますので、気軽にご相談ください。差別落書き・差別発言などに遭遇されましたら、倉吉市人権政策課(☎22-8130)または、やまびこ人権文化センター(☎28-4265)にご連絡ください。

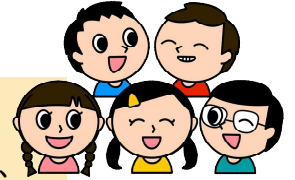


こどもまんなか児童福祉週間

5月5日～5月11日

こども家庭庁では、5月5日の「こどもの日」から1週間を「こどもまんなか児童福祉週間」と定め、こどもたちの健やかな育成について国民全体で考えることを呼びかけています。

■ 「こどもまんなか」を実現する「こども家庭庁」



こども家庭庁は、こどもまんなかの社会を実現するためにこどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考え、こどもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るためのこども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます。

令和5年4月に発足したこども家庭庁は、「大人の都合」ではなく、「こどもにとってどうか」を中心に判断する「こどもまんなか社会」を目指しています。
(参考：こども家庭庁 HP)

■ 「こどもまんなか」の意味は？

「こどもの利益を第一に考え、こどもに関する政策を社会の真ん中に据えること」です。

■ 日常生活のなかで、私たちにできること

「こどもまんなか」は私たちの行動で実現されます。例えば

- ◆ こどもの声を聴く 学校行事や地域活動で、こどもの意見を取り入れること
- ◆ こどもの立場で考える 「こどもにとってどうか」を最優先に検討すること
- ◆ 安心できる環境をつくる 困っているこどもに声をかけること
- ◆ こどもの権利を守る 差別や偏見に気づいたら見過ごさないこと



■ 誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」に向けて

こどもたちは一人ひとり異なる個性やペースをもっています。例えば、音に敏感、集団が苦手、こだわりが強い、気持ちを言葉にすることが難しいなどです。

「どうしてできないの？」ではなく、「どうすればできるか」

「こどもを変える」のではなく、「環境を変える」

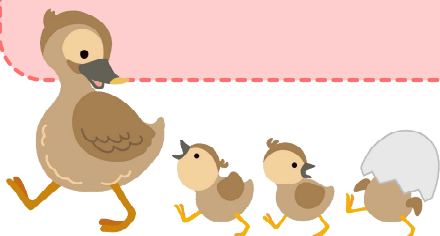
「できないこと」よりも、「できること」

その子に合った支援を、その子の視点で考えることが「こどもまんなか社会」に向けた第一歩です。

【令和8年「こどもまんなか児童福祉週間」標語】

いこうぜ!みんな キラキラのあしたへ ゴーゴゴー!

やました あさひ
(山下 旭陽さん 6歳 香川県)



【こどもまんなか児童福祉週間 ポスター】

絵本作家 宮野聡子さん

